

水の大切さを初めて実感したのは、小学一年生の夏でした。テニススクールの練習中、水筒を忘れたことに気づきました。恥ずかしくてコーチに言えず、喉がカラカラになるまで我慢しました。ようやくレッスンを終わり、自販機で買った水を一気に飲んだ瞬間、冷たい水が体じゅうに染み渡るのを感じました。「水ってこんなに美味しいんだ」それまで当たり前のように飲んでいた水のありがたみに、初めて気付いた瞬間でした。

お母さんがよく連れて行ってくれた川遊びの記憶も鮮明です。真夏の太陽の下、透き通った川で泳ぎ回ったあの感覚。水が肌に触れる心地よさ、水面きらめく光、子どもたちの笑い声。当時はただの「楽しい水遊び」でしたが、今思えば、水は単なる物質ではなく、私たちに安らぎと活力を与えてくれる存在だったのだと気付きます。

ある日雨が降る理由をお母さんに尋ねたことがありました。「それはね、神様が大地に贈る優しいプレゼントなのよ」という答えに、幼いながらも深く納得したのを覚えています。確かに、私たちは自然の恵みによって生かされています。人間だけでなく、道端に咲く花も、公園で遊ぶ犬も、すべての生命や水によって支えられているのです。

しかし世界に目を向けると、八十二億人のうち半分以上が安全な水を手に入れない現実があります。蛇口をひねれば清潔な水が出る私たちは、実はとても恵まれているのです。この事実を知った時、胸が締め付けられるような気持ちになりました。「この恵みに、どうやって恩返しができるだろう」とそう考え始めたことが、私と水との関係の新たな章の始まりでした。

まずできることは、水をきれいに保つ努力です。川や湖、井戸水を汚さないために、ゴミのポイ捨ては絶対にしない。特に電池や化学薬品などの有害なゴミは、慎重に分別しなければなりません。また、生活の中で水を無駄にしない心がかけも大切です。歯磨き中に水を出しっぱなしにしない、シャワ

ーの時間を1分短くするそんな小さな積み重ねが、大きな節約につながります。

水は私たちの生活のあらゆる場面で活躍しています。飲み水として、料理として、洗濯や掃除に、そして発電や農業に、水なくしては、私たちの文明そのものが成り立ちません。最近では、学校の理科の授業で「水の循環」について学び、地球上の水が有限であることを知りました。一滴の水が蒸発し、雲となり、雨となって再び大地にもどるこの壮大なサイクルの中で、私たちは水を借りて生きていくにすぎないのです。

これからも、水への感謝の気持ちを忘れずに行きたいと思えます。そして、未来の世代が同じように清潔な水を享受できるように、今日からできることを実践していきます。母が教えてくれた「神様のプレゼント」を、今度は私が大切に守り、次の世代へと手渡していきたいそれが、水と共に生きる者としての、ささやかながらも確かな誓いです。

ちなみに、僕が日本にきて初めてのんだ水はいろはすです。だけど、大きくなって学校の水道水が一番おいしかったです。

これからも、学校の水道水をいっぱい飲んでいきたいです。自販機のジュースやのみ物をへらしていきたいと思います。

ありがとうございます。